



漢海舟長志の序

清徳天皇の御代

在架中の我輩又縁あり

議長等は一會に招

ふべき事と云はれ悦ば

合一層よりうるまの旨

加辱事頻りに其志

清快方其の至るに招

状に及ぶ事少くも

在座の可成十八の事外

此の世帯中より有る

右の面法中より得る

少く病家に加ふる



右市面法中七の行に  
少く持病家：加ふる：

四五口前より。新書讀む

且つ各職長昔の外日記

者の上京する者多く

轉、繁劇、ミキ、ミ

余り石止お認め取

敵一も止むる止ま

是者之人名家成の

通は、頓首

二月十日

矢野三雄

閣下

下執事